

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2022年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	中国の筆法から学ぶ書写・書道教材開発の試み
研究代表者	出野 文莉（大阪教育大学 教育学部 教授）
共同研究者	大岩本 幸次（大阪公立大学 文学研究科 教授）

研究成果

一、中国書法を基にした教材作り

最近ではパソコンの時代になって、文字は書くものではなく、キーを打つものになりつつある。そのような時代にあって、書道はどういう意味を持つのだろうか。パソコンで打った文字は整った字形であるが均一でもある。それに対して筆で書いた文字は同じ文字であっても一字一字微妙に異なる。ここに毛筆によって生み出された筆意が認められるのである。二十一世紀の時代になって、「物」の時代が進むとともに、それとは逆に「心」への回帰が求められてきたように思えて仕方がない。それは「心」の世界へのノスタルジーとも言えるであろう。毛筆で書くことが美を極めることを目的とするなら、真・善・美を極める禅や茶の湯の精神性に通じるものと言えるであろう。「書写」「書道」を効率よく学習するためのテキストとして中国の書法の臨書の仕方を取り入れた教材を開発したい。大学生が国語の教員免許状を取得するためのテキストとしても使えるように考慮されている。そういったコンセプトをもとに『書道を楽しむ』という教材を作成した。

二、教材の内容について

内容については、楷書・行書・草書・隸書・篆書にわたって、中国の代表的な古典を手本としている。基本的には楷書・行書・草書・隸書・篆書の五つの書体に対して中国の筆法を学び、書写・書道の総合的理解が得られることを目指している。すぐれた古典は、その古典独自の美的造形があり、それらを臨書することによって知らず知らずのうちに書に対する鑑賞眼が涵養される。そして、鑑賞眼が得られることによって書道が上達するという相互の関係性が成り立つ。

日本で書を始める人は小学校の書写教材を見てわかるように書道家の書いた手本から臨書を始めるが、この教材では中国の古典を手本にして臨書する方法をとっている。中国では、小学校で書法（日本の書写・書道は中国では書法という。）を習い始める時から古典臨書を始めるが、その方が書の上達するために効率的であることを、以前中国で子供に書法を教えていた私の実経験から皆様にお伝えしたい。

本教材を学ぶ人は、一つ一つの課題を繰り返して丁寧に臨書しながら、ゆっくり学習してほしいと思う。少しずつ臨書が上手になっていくことを楽しみながら、末永く書道を生活の中に取り入れて愛好してほしいと思う。書道の上達は、始筆から終筆までを手を抜くことなく丁寧に書き切ることから習得される。どうしても楽にきれいな線が引けるか、滑らかに伸びよく筆が運べるかを考えながら書くことが大事である。特に筆の先のまとめ方をよく目で追いながら始筆・送筆・終筆をまとめることが大事。練習を重ねることによって手の感覚で覚えるようになる。書写・書道の書体として、漢字には五つの書体が挙げられる。楷書・行書・草書・隸書・篆書である。その他に日本の仮名がある。それぞれの書体には独自の書道美があり、文章で書かれた各々の書体の醸し出す味わいは毛筆で書きながら感じて欲しいと思う。



甲骨文 金文 小篆 隸書 草書 行書 楷書

五つの書体（楷書・行書・草書・篆書・隸書）を習うことで、それぞれの特徴が理解でき、書道の総合的な鑑賞眼を磨くことができる。書体の変遷は篆書・隸書・草書・行書・楷書の順であるが、その歴史的な変遷も頭に置きながら各々の書を鑑賞していただきたいと思う。

篆書には殷代の一番古い甲骨文（紀元前 1300 年頃～前 1100 年頃）、それから殷代末・周代（紀元前 1120 年頃紀元前～前 222 年）の金文、その次に秦代の小篆（紀元前 221 年頃～）がある。この「馬」字の変遷を見ると、甲骨文・金文から篆書への変化、それから隸書や楷・行・草への字体の変化が見てとれる。甲骨文は馬の象形であることがよくわかるが、楷書に至っても四本脚とたてがみや尾の部分が残っている。「馬」字のいろんな書体を知っていると、漢字に対するイメージがより鮮明になってくる。臨書がやり続けて作品を創作するようになると、漢字にどのようなイメージを抱くかが独創的な作品を生み出す鍵になる。本教材は、臨書しながら書作品を知らず知らずのうちに鑑賞力を習得するようになっている。

### 三、今後の研究について

私の研究課題は、白川文字学・漢字教育・書道教育等多岐にわたっている。それらを全てまんべんなく器用にできる人間ではないので、少しずつ気づいたことをノートに書き、小さい問題から少しずつ解決していく方法を努めるのが私の考え方である。そのようなメモがいくらか溜まったところで着想が出来れば、それを研究テーマとして今後の研究を重ねていきたいと思っている。特に、私は大学生に書道を教えているので、学生が理解しにくいこと・学生が見逃していることに気付き、そのことが時に重要なテーマになる。今後も研究を深めていきたいと考えている。

